

講義名	経済学入門（人間社会学部）					授業形態	
担当教員	森脇 文子	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4時限				
		単位数	2	履修開始年次	1年生	ナンバリング・コード	

主題と概要
わたしたちの生活は経済と深く結びついています。しかしそれらがどのように結びついているのかについては具体的に理解していないことが多いのも事実です。 例えば、私たちが購入する商品には、国内で生産されたもの、海外生産で輸入されたもの、海外で生産された部品を使って仕上げられて日本国内で消費されるもの、あるいは、海外で消費されるものなどがあります。また、商品の生産や販売や消費は常に安定的に行われるわけではありません。もし生産や販売や消費が安定的に行われない場合があるとするば、なぜそうになっているのでしょうか。さらに、人工知能(AI)の発展は、私たちの雇用や生活をどのように変化させていくと考えられているのでしょうか。この講義では、経済の動きとそれに影響を与える諸要因に関連する基礎的な知識を身につけていきます。 経済ニュースや新聞記事が理解できるようになるため、経済学の基礎的な用語や社会の仕組みを学びましょう。

到達目標
1. 経済の基礎的な用語を理解できるようになる。 2. 経済の基礎的な仕組みを理解できるようになる。 3. 日常的な話題を扱った経済ニュースの内容を理解できるようになる。 4. 国際関係をふまえた日本経済の動きについて理解し、自分の考えを持てるようになる。

提出課題
☆課題レポートを提示します。このシラバスの「評価の基準」をよく読み、第1回授業に出席して授業の進め方等についての詳細説明を聞いてください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
☆授業開始時に、前回授業に關して出された質問や意見についてコメントをします。 ☆授業開始時に、自分の授業の復習問題を提示します。手を挙げて回答して、各人の持ち点を上積みしていってください。 ☆提出課題のなかから数例をとりだし、その特徴点等についてコメントをします。

評価の基準
1. 「授業中の発言・態度」… 点数＝15点(1点×15回) 2. 「課題」・・・点数：30点(15点×2回、あるいは、10点×3回) 3. 定期試験 … 点数：55点 評価は、上記の「1+2+3」の合計点で、評価をします。 ☆ 合計60点以上が、合格です。59点以下は、不合格です。

履修にあたっての注意・助言他
☆ 日頃から、新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事、企業活動や消費者行動などに関する情報を収集しておいてください。 第1回目の授業に必ず出席し、授業の進め方、課題の提出方法、評価基準についてしっかりと理解したうえで、受講してください。 関連科目として、次の講義の受講を勧めます。 【生活構造論、消費文化論、消費者問題論、NPO論、アミューズメント事業論】

教科書	.「使用しない」.			

参考図書				
.会社員が消える.	大内伸哉	文藝春秋	968	9784166612079
.世界100年カレンダー.	河合雅司	朝日新聞出版	891	4022951400
.武器としての労働法.	佐々木亮	KADOKAWA	1650	9784046049728

その他
☆ 授業で使用するプリントは、教室で配布します。 ☆ (その他の参考文献) ・吉川徹(2018)『日本の分断 切り離される非大卒若者たち』、光文社新書 ・内田樹、原山浩、手嶋昌、平川克美(2018)『「農業を株式会社化する」という無理 これからの農業論』、家の光協会 ・朝野公毅(2015)『あなた、そうなの? 経済入門』、日本経済新聞出版社、1,500円＋税。 ・ダン・アリエー(2013)『予想通りに不合理 行動経済学が明かす「あなたがそれを選ぶわけ」』、早川書房 ・渡辺隼人(2015)『ワタミの初任給はなぜ日銀より高いのか?』、旬報社 ・朱野明子(2015)『わたし、定年退職します。』、新潮社 ・山田正彦(2019)『売り渡される食の安全』、角川新書

授業計画
1. ガイダンス、経済学は何を対象としているか 2. 日本の人口構造(1)ー人口構造の変化、都市への人口集中、少子高齢化 3. 日本の人口構造(2)ー世帯構造、孤独死、世代間の支え合い 4. 貧困と格差ー平均所得、金融資産の平均額、所得の格差 5. 格差問題ー貧困率、子どもの貧困、格差 6. 雇用と失業ー労働力人口、失業者、労働力不足、女性の就業率、増加する非正規雇用 7. ロボット、AIーロボットの活用と共生、AIと雇用 8. 企業の姿ー事務所の状況、国際化する日本企業、日本の経営の特徴 9. 貿易ー貿易収支の推移、輸出入品目の変化、主な貿易相手国、日本の国際収支 10. エネルギー問題ー日本のエネルギー事情、エネルギー供給者、電力需要 11. 食料問題ー国内の食料消費、食料自給率、農業、食糧安全保障 12. 物価、円高・円安 13. 地価、家賃と供給 14. コロナ禍の雇用と生活 15. まとめと定期試験についての説明 ※戦後の日本経済(復興期、高度経済成長期)については、「生活構造論」の授業で扱います。

授業形態（アクティブ・ラーニング）		
☐	ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
【予習】 授業終了時に、予習について説明します。今回の授業内容に関連する基礎的な語句や情報を調べる等の予習を、授業開始時までに済ませておいてください（作業時間：2時間程度）。 【復習】 授業で使ったプリントを用いて、基礎的な内容の復習をしてください。配布プリントの最後に復習問題を提示してあります。また、配布した新聞記事などを利用して、具体的事例で授業内容をより深く理解できるように努め、ノートに要点をまとめておいてください。（作業時間：2時間程度）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
①社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことごらの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。②社会の課題や人びとの考え方を捉えらることや、社会共創・産学連携、インターンシップなどで現実社会との接点を持ち、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身につけ、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創造することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
☆対面の授業中に多くの質問を出します。受講者は、自分の意見を述べてください。

実務経験の有無及び活用

備考
☆大学の提示にしたがい、感染予防に努めてください。 ☆第1回目の授業に必ず出席し、授業方法、成績評価方法について、しっかりと理解してください。 ☆授業ではメモをとって、理解を深めてください(スマホによるPIT等の撮影は禁止します)。 ☆出席者、プリント、新聞記事を適宜配布します。報知活動等による欠席者は、冒頭の授業開始前に前回プリントを受け取ってください。 ☆正当な理由のある欠席については、欠席後10日以内に連絡をしてください。この期間を過ぎた申し出は受け付けません。 ☆授業中の私語や教室への勝手な出入り、スマホ等の電子機器の利用を禁止します。 授業態度の悪い人には、退室を求めることがあります。